

二〇二四年度

一般公募推薦入学試験

## 【適性検査】

### 「国語」問題

1. 問題および解答用紙は試験開始の合図があるまで開かないでください。
2. 解答はすべて解答用紙の所定の欄に記入してください。
3. 受験番号および氏名は解答用紙の所定の欄に記入してください。
4. 試験終了後、解答用紙を問題の上にふせて置いてください。
5. 回収するのは解答用紙だけです。問題は持ち帰ってください。
6. 「国語」の問題は1ページから6ページまでです。

問題は次頁から

1 次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

精神分析の実践とは、自分のなかのコントロールから逃れるような欲望のあり方を発見していくことです。

しかし、自分が自分のことを意識的にこうだと思っっているような自己認識を続けていては、自分の心の本当のダイナミズムには届きません。そこで使われるのが、「自由連想法」という方法です。

精神分析家のオフィスには、分析家が座る椅子があり、その前にカウチという長椅子があつて、クライアントはそこに寝そべります。そうすると、自分の頭の後ろに分析家が座っているかたちになり、視線が合わず、お互いの顔が見えないようになっていきます。自分の目の前は何もない空間ですが、あたかもそこにスクリーンがあるかのように、そこに向けてただ思いつくことをベラベラしゃべるのです。今自分は恋愛関係のトラブルで困っているとか、自分はいつも浮気を繰り返してしまつたとか、直近の自分の問題を語ることからしゃべり始めると、昔中学校の先生に言われたイヤなことか、夏休みの午後には家族と冷やし中華を食べた場面とか、そういうことがだんだん思い出されてきます。そういうことを思いつくままにしゃべり続けるのです。

そのあいだ分析家は何をするかというと、あまり大したことはしません。頷きながら話を聞いていて、あるいは無言になつたりし、ときどき「今出てきたこの部分はあれとつながりますね」といった解釈を言うくらいです。

そうやって即興演奏さながら昔のことを思い出していくと、自分は今、恋愛関係にある人にある種の恐れを抱いているらしい、みたいなことが自覚されてきて、実はその恐れが中学校のある先生に対して抱いていた恐れと何か関係していると気づいたりします。そして典型的に精神分析的には、その恐れは親との関係に結びついていたりするわけです。

ただ、今の恋人との関係が親との関係につながるなんていうのはいかにもな話で、そういうのをまさに「エディプス的」と言うわけですが、そんなことを認識したところで何が変わるんだという話でもあるわけです。実際、ちよつと意識的に考えてみれば、そういうつなぎ方は多少連想力がある人だったらできるかもしれない。

精神分析の本当のところは、記憶のつながりを何かの枠組みに当てはめることではなく、ありとあらゆることを芋づる式に引きずり出して、時間をかけてしゃべっていく過程を経て、徐々に、自分が総体として変わっていくことなのです。どう変わるかはわかりませんが、これはやはり一種の治療であり、何とも言いにくいかたちで、自分のあり方がより「しつかり」していくのだと言えると思います。精神分析は時間を節約してパッパと済ませることができません。精神分析経験とは、ひじょうに時間をかけて自分の記憶の総体を洗い直していく作業なのです。

これは「自分でコントロールしきれないものが大事だ」という現代思想の基本的な発想

につながってきます。つまり、自分のなかの無意識的な言葉とイメージの連鎖は、自分のなかの「他者」であるということになります。<sup>(3)</sup>

この「他者」とは他人ということではなく、「他なるもの」という広い意味でとっていただきたいのですが、とにかく自分のなかには自分で取り扱い方がよくわかっていないような「他者」がたくさんひしめいていて、それによって踊らされるようにして意志的な行動を行っているのです。

こういう意味において、フロイト<sup>\*1</sup>的な無意識の概念は、自分のなかには他者がいるのだということとして言い換えられ、そしてそのことが現代思想における脱秩序的な方向性とながってくることになります。

その上で、無意識の何がポイントなのでしょう。これは僕の解釈ですが、「偶然性」というキーワードをここで出してみたいと思います。

精神分析で明らかになるのは、自分の過去のいろんな要素が絡み合い、ところどころ固い結び目ができてしまい、それが今の行動に傾向を与えているということです。ただしそれは、「人間はこういう経験をしたらこういう人間になる」などと一般法則のように言えるものではありません。<sup>(4)</sup>精神分析はその意味で、個別の経験を大事にすることです。似たような交通事故に遭ったとして、そのことが大きなトラウマになる人もいれば、ならない人もいるでしょう。

つまり、無意識とはいろんな過去の出来事が偶然的にある構造をかたちづくっているもので、自分の人生のわからなさは、過去の諸々のつながりの偶然性なのです。

今自分にとってこれが大事だとか、これが怖いとかがあり、それについて物語を持っているとして、「それはあのとときにああいふ出会いがあったからだ」と振り返るときその出会いは、たまたまそうだったというだけ、そしてそのことが深く体に刻まれてしまったというだけであって、その「運命」に意味はありません。<sup>(5)</sup> たまたまです。

でも人間はまったくわけもわからずに自分の人生が方向づけられているとは思いたくない。我々は意識の表側で必ず意味づけをし、物語化することで生きているわけですが、その裏側には、それ自体でしかない出来事の連鎖があるのです。

ただそのことに直面するのが通常は怖いので、人はさまざまな物語的理由づけをします。しかし精神分析の知見によれば、まさにそのような物語的理由づけによって症状が固定化されているのです。むしろ、無意識のなかで要素同士がどういふ関係づけにあるかを脱意味的に構造分析することで初めて、症状が解きほぐされることになるのです。

(千葉雅也『現代思想入門』による)

※1 フロイト：一八五六～一九三九。オーストリアの精神分析医。人間の無意識下にある欲望に着目し、精神分析を創始した。

問1 — 線部(1)「自由連想法」という方法」とありますが、それを行う目的として、適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア これまでの人間関係を認識し直すこと
- イ まだ知らない自分の可能性を追求すること
- ウ 自分の現在の状況を洗い出すように語ること
- エ 普段は思い起こさなくなっていた記憶をたどること

問2 — 線部(2)「徐々に、自分が総体として変わっていくこと」とありますが、それはどういうことですか。これを説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 意識的に捉えてきた自己認識から離れて、記憶やそのつながりを全体的に捉え返すということ
- イ 時間をかけて向き合うことで、これまでの自己認識の誤りをじっくりと正していくということ
- ウ 制御できない自己こそが大事なことから、焦らずに様々な方法で分析を加えるということ
- エ 長期的な観点から、自分がどう変わっていくべきかを総合的に考えるということ

問3 — 線部(3)「自分のなかの無意識的な言葉とイメージの連鎖」とありますが、これを言い換えたものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 制御にあらがう、自由を希求する理念の躍動
- イ 無自覚な思いや、制御しきれない欲望の絡まり合い
- ウ 制御を嫌い、偶然のひらめきを好む想像力のうねり
- エ 規範から逃れようとする、制御不能な本能のうごめき

問4 — 線部(4)「精神分析はその意味で、個別の経験を大事にする」とありますが、なぜこう言えるのですか。その理由を説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 例えば交通事故に遭ったことがトラウマになるかどうかは、資質によって異なる  
と考えるから
- イ 自分のなかにいるたくさんの他者は、意識されている自己とは無関係に行動する  
と捉えるから
- ウ 現代思想の脱秩序的な方向性に従って、一般的法則から逃れようとする意志を尊

重するから

エ 各人で異なった偶然の積み重ねによって、無意識はかたちづくられると考えるから

問5

——線部(5)「その「運命」に意味はありません」とありますが、「運命」について次のようにまとめました。空欄に当てはまるように、本文中から適当な語句を抜き出さない。

人生がわからないのは、過去が特に理由のない I (6字) だからである。しかし、我々はそのような偶然性に II (11字) ので、何らかの理由を求めたい。つまり、我々は偶然の出来事を III (3字) することによって生きているのであり、それを「運命」と呼ぶのである。

問6

——線部(6)「症状が固定化されている」とありますが、どういうことですか。これを説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 各人がそれぞれ勝手な解釈をすることで事実が分からなくなり、客観的な事実の形成が困難になって主観的な物語ばかりになるということ
- イ 人生が意味のない偶然から形成されているということを認めたくない恐怖が逆に妄想を膨らませ、ありもしないゆがんだ物語を形成するということ
- ウ 過去の様々な事柄がたまたま関係し合って今あるようになっただけに、あたかも意味があるかのように理由を付けてそれに執着するということ
- エ もともとが意味のない出来事の羅列に過ぎないのに、あたかも事実であるかのような思い込みが余計に存在の無意味さを突き付けてくるということ

問7

本文の内容と合致しないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 精神分析とは、「自由連想法」によって過去を清算することである。
- イ 心の中をくまなく知りたければ、自覚的な自己を認識するだけでは不十分である。
- ウ 自分の過去とは偶然にそうなった出来事の連なりであり、そのこと自体に意味はない。
- エ 無意識とは自分にとっての「他者」、すなわちコントロールしきれない自分のことである。

2 次の文章は江戸時代の随筆『雨窓閑話』の一節です。本文を読んで後の設問に答えなさい。

ある時徳蔵、北海を乗りける時、風烈しく方角をもわかたず吹き付けしに、船中食物き<sup>1)</sup>れて飢渴に及べり。漸く新米の藁四五束有りしを潮にひたし、かみしめて口腹を潤し命をつなぐ。同船の者三四人有りしが、いづれも声をあげて泣き叫び、徳蔵にいふは、**【**かやうなる大風にて船を覆し、あるいは破船などせんとする時は、<sup>※1</sup>髻を放ち帆柱をきることと申すなれば、いざやその通りにせんといふ。徳蔵いはく、我はそのこといやなり。船主と生まれしうへは、ただその職分を大切にして外の心の動くこと更になし。また帆柱は船中肝心の道具にして武士の腰の物のごとし。凡そ待たる者命が惜しきとて、腰の物を打ち捨てるといふや有る。命は天命なり、風は天変なり、人力に及びがたし。また、髻を払ひ出家に成りたりとも、などや仏神の歡び給はんや。命惜しみての仕方なし坊主と決句<sup>※2</sup>はせ給はんか、我は戦場にて討ち死にの覚悟なり。天の助けあらば助かるべし。さなくばここにて死するとも本望なりとて、あへてたじろぐ気色なし。その内に風静まり波おさまりて、難なかりしとぞ。

※1 髻：髪を頭の上に集めて束ねた所

※2 決句：結局

問1 ——— 線部(1)「徳蔵、北海を乗りける時」とありますが、そのときの状況を説明したものとして適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 徳蔵の船には、あちらこちらから強い風が吹き込んでいた。
- イ 徳蔵の船に載せた食料は、激しい嵐によって流されてしまった。
- ウ 徳蔵たちは、藁を潮につけ口に含むことで飢えをしのいだ。
- エ 徳蔵と同じ船に乗っている人々は、大声で泣きわめいた。

問2 ——— は会話文の始めを示しています。この会話の最後の三文字を解答欄に記しなさい。

問3 ——— 線部(2)「そのこと」とありますが、具体的にどのようなことを指しますか。

その説明として適当なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 髪を切り出家をすること
- イ 海に身を投げる覚悟を決めること
- ウ 船を進めるための帆柱を切ること
- エ 船が流されないよう帆を下ろすこと
- オ 腰の刀を海に投げ侍という身分を捨てること

問4 本文の内容と合致するものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 徳蔵は、天命も天変も気力で乗り越えられると考えた。
- イ 同船の者は徳蔵を説得できず、討ち死にする決意を固めた。
- ウ 侍と船主の両方の顔を持つ徳蔵は、刀も帆柱も守り抜いた。
- エ 徳蔵は言い伝えには従わず、船主としての職分を大切にした。

(以下余白)

